

日刊 労働者だ、ストが闘いだ!

86. 5. 23

No. 2247

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七〇七

この家が労働者だ、この家が闘いだ!

労働学校「イギリス炭労ストライキ」(増田教授)の講義に感動



増田教授の真摯な講義に全員熱心に集中。向いの現場に学んだ

労働千葉「第二期労働学校」第八回講座が五月十七日開催された。一年間もの長期におよぶストライキで、英帝国主義―サッチャーの労働運動圧殺の攻撃と対決しぬいた英国炭鉱労組（NUM）の闘い「イギリス炭労ストライキ」について、法政大学教授・増田寿男氏より講演を受けた。労働学校は、二波にわたる闘争など「分割・民営化」阻止への取り組みが連続する中で、延期されていたが、今回再開されたもので、今秋へのたたかいへむけた教育活動は、極めて重要な取り組みであり、労働学校の成功をかちとる新たなターゲットとして、有意義な講演に全参加者は熱心に耳をかたむけ、ノートをとっていました。【本講義の学習用ビデオ（貸出制）と資料パンフ（三百円）ができますので利用して下さい】

三里塚二期着工粉碎！

「700名解雇処分、900名逮捕」に負けず一年間のスト貫徹

炭鉱ストライキは、八四年春から一年間続いた。八四年三月、首相・サッチャー―全国炭鉱庁・マクレガーは、炭鉱労組に対し、二万人合理化―五年間で十万人の合理化をうち出した。七九年以降、イギリスは経済停滞の下、失業率十三%におよんだ。その一方で、サッチャーはマルビナス侵略、ミサイル・パーシングII配備など、戦争にむけての労働運動圧殺にうってでた。それは、労働関係諸法の「雇用法」「労働組合法」を改悪し、戦闘的労働運動を破壊する攻撃としてかけてきた。

マクレガーという男は、アメリカ資本家で、サッチャーに雇われ、全国製鋼会社の合理化（九万五千解雇）を断行させ、その後「赤字」―合理化強行、そして闘う炭鉱労組つぶしを目的に送り込まれた、まさに国鉄「赤字」―「分割・民営化」攻撃と同質のものとしてかけられてきた。

イギリス最強の労組・炭労（十八万



炭鉱閉山に反対しスト支援にかけた女性行動グループ(4月)

スト破りをのせたバスを實際のコンボイがまもり、ノースダーバイシャーのウォーゾープにくる。弾劾する労働者(6月)

の卓越したリーダーシップと、現地労働者の支援に「飛びまわるピケ隊」と称された活動家、そして、家具を売り払い、新聞の購読をやめ、電話も解約し「勝つまでは草を食っても闘い続ける」と、たたかいにすべてをかけた一般組合員の強固な団結のもとで闘いぬかれたのである。それは、さまざまな支援組織を生み出し、とりわけ「婦人の会」などは、食料供給などの活動を担ったが、それは現在も運動を継続しヨーロッパの反核運動の中心となるま



で活発化している、などを話され、短時間であつたことが残念でならないほどでした。

講演終了後、討論に入り、イギリス労働者の知られざる「気質」などを含め話され、興味深く聞きました。

われわれ国鉄労働者は、イギリス労働者のたたかいを大いに学び、中曽根の「分割・民営化」攻撃に対し、第三波・第四波の闘いをもって粉碎しなければならぬ。(千葉転支部U生・寄稿)

勝利の確信―不屈の労働者魂を学べ、わがオリーブ波へ

一年間におよぶ大ストライキは、たたきあげの労組委員長・スカーギル

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!